

大阪支部・神戸支部

教宣部合同交流学習会

12月17日、初めての試みで、大阪・神戸支部教宣部の交流学習会を、阪神出屋敷駅前・リベルで、神戸支部から3名、大阪支部から9名、計12名の参加で開催しました。

両支部では機関紙（大阪支部は『だんけつ』、神戸支部は『神戸支部ニュース』）を発行しており、お互いのこれまで活動してきた内容、これから合同で出来る事などを意見交換し、機関紙活性化に向けた学習会を行いました。

自己紹介後、早速、機関紙について互いの記事案、取材、編集、印刷、配布方法など、機関紙を作り上げていく苦労は共に同じで、編集ソフトも同様に『パーソナル編集長』を使用していたので、とても有意義なディスカッションができたと思います。

そして、「大阪・神戸合同でできる事」の議題について、学習会、フィールドワーク、名画上映会、戦跡巡りや資料館見学など、現地に行き学ぶ系やウォーキングを取り入れて家族も参加できるように工夫するなど、いろいろな提案が飛び交っていました。



今後も共に教宣部・機関紙を活用し、大阪支部・神戸支部を活性化するため、合同でのフィールドワークや合同で「元気の出る」（？笑）学習会などをすることを約束しました。これからの『だんけつ』『神戸支部ニュース』に、ご注目いただき、楽しみにしておいてください。（執行部 宮脇 祥三）



▲ 神戸支部教宣部のみなさん

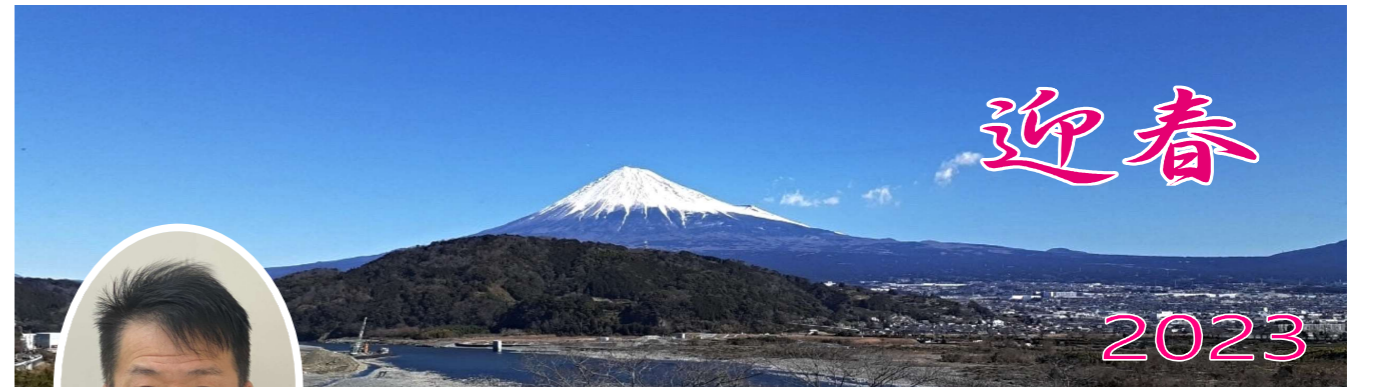


だんけつ

第369号 2023年1月1日



発行 行
大 阪 市 港 区 築 港 1 - 1 2 - 2 7
全 日 本 港 湾 労 働 組 合 関 西 地 方 大 阪 支 部
発 行 責 任 者 國 分 仁 昭



平和なくして労働運動はなし

執行委員長 小林 勝彦

新年おめでとうございます。全港湾大阪支部組合員とご家族の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。

迎えた2023年は卯年（癸卯）です。うさぎは、穏やかな存在であることから『家内安全』や『飛躍』などを表しています。特徴としては温厚かつ従順であり、新しいことを始める上で最適な年ともされています。うさぎ年は「飛躍」や「向上」の年と言われています。

また、2023年は癸卯の年で、「揆（はかる）」という文字の一部であることから「種子が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味だと言われています。「卯」はもともと「茂」という字が由来といわれ「癸」と「卯」の組み合わせから、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になると考えられています。

私たち大阪支部にとって昨年は、「改めて平和を考えさせられる年」でした。2018年から始まった新型コロナウイルス感染が、いったんは重症化率が低下した事から落ち着きを見せ始めました。しかし、10月から

始まった「全国旅行支援」以降、再び感染不安が広がりました。

さらに昨年2月24日、ロシアはウクライナへ武力による侵攻を開始しました。北京冬季オリンピック・パラリンピック期間中のでき事で、平和の祭典の最中に多くの人命が失われる大会となってしまったことが、世界を震撼させました。

労働者にとっては、このふたつのでき事が我々の生活に大きな影響を及ぼす事となりました。大きな原因は「燃料・資源価格の高騰」と、「円安による輸入コストの増加」といわれています。穀物、燃料高騰による食品、流通、円安による輸入品、さらには電気・ガスなどの削る事のできない必需品の値上げは生活を直撃しています。さらに、防衛費の原資として消費増税が進められることは明らかです。23春闘はこれらの事を踏まえて粘り強い闘いが求められます。

一方、社会情勢を見ると「旧統一教会（世界平和統一家庭連合）」から浮き出された「政治と宗教」や相変わらずの「政治と金」問題で相次ぐ大臣更迭から見て取れる様に政治家の質の悪さが露呈されました。

また、その陰では、平和憲法を蔑

ろにする改憲勢力の勢いが、ますます力をつけ、マスメディアまでもが、中国、朝鮮敵視を今まで以上に煽り米軍基地、自衛隊基地の強化を進めようと躍起になり「物価対策」を後回しにしてでも防衛費の増額を決めました。また、政府は民間用の港湾や空港を平時から利用しやすくなる仕組みを導入する。港湾法などに基づく施設利用の「基本方針」に自衛隊の使用に関する規定を盛り込むとしています。私たち全港湾は、過去の侵略戦争に加担した反省から「港を軍港化にするな」というスローガンを掲げて反戦平和の運動をすすめ、先輩たちは朝鮮戦争においてもベトナム戦争においても、軍事物資の荷役を拒否して闘ってきました。この事は決して忘れてはいけません。

結びに、全港湾大阪支部は、「平和なくして労働運動はなし」の精神を貫き、組合員一人ひとりを大切に、そして互いに支え合える組織として、地域の仲間と共に平和と労働組合としての権利を守る闘いを団結の力で勝ち抜くことを軸に、この新しい年がよい年でありますよう心から祈念して、新年のごあいさつとさせていただきます。

港湾部会・車両部会 春闘討論集会

◇港湾部会

昨年12月6日（火）15時30分より、地本第2・3会議室にて「港湾部会21年度総会」が24名の参加で開催されました。

21年度総会では活動報告・22年度運動方針及び新役員・幹事体制が確立されました。運動方針では、①組織強化拡大の観点から「意識の共有」②統一集団交渉での大幅賃上げ獲得に向けた「港湾部会強化の組織作り」③万博開催

に伴う港湾労働者にもたらす影響の共有、また、我々を侵害する「IR・カジノ建設に対する反対運動の強化」以上、3点について意識の共有が図られました。

総会終了後、続けて「港湾部会23春闘討論集会」が開催されました。大きくは3点について、①「要求額について」②「定年延長制度・後補充について」③「万博・IR・カジノ建設問題について」議論されました。

まとめとして、①要求額は3万円以上②定年延長・後補充の問題点を支部討論集会にて共有し積極的な取り組みを進める③2023年

統一地方選挙にて政治闘争を強化、IR・カジノ建設に断固として反対、大港労協に結集し、維新政治に打ち勝つと、されました。

22春闘では政府（公取）から「価値創造のための転嫁円滑化施策」の推進が打ち出されたものの、我々が働く中小企業への反映はほぼ皆無でした。そのため、物価上昇や増税に伴った賃上げにはなりません。このままでは我々の生活は疲弊し、さらなる格差を生み出すことでしょう。

近年「官製春闘」との言葉が横行する時代となっていますが、全港湾大阪支部は我々の「権利を勝ち取る」「守る」など、本来の労働運動を初心に戻り展開し、組織的にたたかっていかなければなりません。大阪支部に集う仲間が団結して強い気持ちで23春闘勝利を勝ち取りましょう。

港湾部会長 横山 貴安基



2022.12.6 港湾部会

◇車両部会

明けましておめでとうございます。

昨年も長期化するコロナウィルス感染症で、交通運輸のみならず、国民に未曾有の危機をもたらし、感染者は一時期減少するも、ふたたび増加し「ウィズコロナ」の取り組みを加速させ、コロナ禍からの回復、経済再生に踏み込むと感染者が全国で増加、また、インフルエンザ感染者も増えたことから経済再生はまだまだ先の見えない状況となっています。その上、深刻な人材不足、運賃や賃金の低迷化、運輸産業においては残業時間の問題や2024年には働き方の大きな変革を運輸産業全体で行なっていかなければなりません。

世界では多国間協調が必要な時にもかかわらず、侵略戦争、国家間の対立、世界中で広がる格差社会、安全保障問題の深刻化などの

リスクが波動的に発生し不安定な状況を生み出している、このような世界的にも危機的な状況だからこそ共に乗り越えて我々は足元をしっかりと固め、「すべての労働者の立場にたった働き方」の構築と安心して働ける環境、思いやりのある「安心・安全で次世代に繋げる改革」を推し進めていかなければならないのです。

このような環境を改善させるためにも、車両部会春闘討論集会が昨年12月18日に開催されました。各分会から今春闘の方針案につ

いて発言があり、賃上げ3万円の要求案に対し、経済的にも根拠ある数字という意見が多かったです。生コン部会からは

「4～5年賃上げがなく人員補充もしていきたい」と発言がありました。

車両部会は、この困難な状況を真っ向から立ち向かい、お互いの立場を認め合い、助け合い、労働組合の役割や必要性の再認識し、物価の上昇やインフレにも動じない組合活動を組合員一丸となって奮闘していきます。

車両部会長 南野 一樹



2022.12.18 車両部会

謹賀新年 HAPPY NEW YEAR HAPPY NEW YEAR HAPPY NEW YEAR

琉球弧で進む軍事化はNO!

自衛隊は攻撃対象になる

昨年12月10日～12日、宮古島に危険なブルーインパルス飛行の抗議に横山書記長と参加した。

10日は東京在住の伊勢崎賢治さん（アフガニスタン武装解除日本政府特別代表）の講演会に、北海道から石垣島まで全国から結集し約400名が集まった。

講演では「沖縄戦やウクライナ侵略の経過をもとに、宮古島はじ



め琉球弧では、アメリカの緩衝国家（大国同士の衝突を防ぐ役割を果たしている国）であり、決して武装などしてはいけない。沖縄戦のように、住民に銃を持たすこと

は戦闘員となり必ず攻撃される。米軍の言いなりでは琉球弧は第1攻撃目標となる」と訴えられた。

ブルーインパルス飛行は 軍事利用の一環

宮古島航空自衛隊の分屯基地が開設されて50年となる節目を記念して、ブルーインパルスの飛行が計画された。

沖縄県は下地島空港の利用は軍事利用とし認めないとしてきたが宮古島空港の使用は港湾の「許可」とは違い「届出」だけなので受理したのだ。

11日10時からブルーインパル

HAPPY NEW YEAR HAPPY NEW YEAR HAPPY NEW YEAR 謹賀新年

スが駐留する宮古島空港で、全港湾北海道地本から川村委員長も参加し、約130人が抗議の声を上げ続けた。



政府は、琉球弧の防衛力整備に向け、宮古島などにある空港や港湾施設を自衛隊が円滑に利用できるよう地元自治体に理解を求めていく方針と報道されている中、町

長が住民に対し、「与那国島では危険を感じた場合は給付金を支給するので島から脱出してほしい」と訴えている。戦争が始まるのは数10年先のことではない。

緩衝国家ノルウェーとの違い

NATO諸国であるノルウェーでは、米軍に武器の保管さえも許さない一貫した方針で、米軍の全ての行動はノルウェー政府の許可制であり「自由なき駐留」の原則が同盟を支配する。これからロシアへ警戒感がどう加速しようと、「米国の行動が引き起こす有事の

真っ先の被害を被るのは我が祖国である」という緩衝国家としての自覚は、この国の国防の「国是」の本質であり続ける。

アメリカのための緩衝国家である日本にとって、琉球弧、すなわちボーダーランド（仮想敵国に一番近い地域）を完全に非武装化することが日本全体の防衛となるのだ。

辺野古新基地だけでなく敵基地攻撃能力強化を認めず、対話と外交で平和な国づくりを宮古などの琉球弧でたたかう仲間と連帯、共闘していこう。

（副委員長 陣内 恒治）